

## 外交史料館ニュース

### 一、外交記録公開

「公文書の管理に関する法律」及び「外交記録公開に関する規則」（平成二八年外務省訓令第一六号）等に基づき、平成三〇（二〇一八）年内に以下のとおり外交記録を外交史料館に移管し、目録に掲載した（対象ファイルの概要は外交史料館ホームページにてご覧いただけます）。

- ① 一月三一日 二七八冊
- ② 三月三〇日 一五〇冊
- ③ 五月三一日 一九八冊
- ④ 七月三一日 二九八冊
- ⑤ 九月二八日 二九九冊
- ⑥ 十一月三〇日 二五八冊
- ⑦ 十二月一九日 二二冊※

※は特別審査済みファイルであり、即時閲覧可能な状態で公開された。

その中には一九五七年の岸総理の米国訪問や一九八七年の中曽根総理の米  
国訪問、一九八〇年代後半の日米半導体協議などが含まれる。全文書の画  
像が外務省ホームページに掲載された。

### 二、所蔵記録のマイクロフィルム化及びデジタル化の実施

戦後七〇年を契機として内閣総理大臣の下に設置された「二〇世紀を振り返り二一世紀の秩序と日本の役割を構想するための有識者懇談会」報告書において我が国が取るべき具体的施策として「アジア歴史資料センターの充実」が指摘されたことを受け、平成二八年度から同センターへの史料画像提供及び所蔵記録の保存などを目的として、戦後外交記録のマイクロフィルム化及びデジタル化の作業に順次着手している。二九年度においては戦後外交記録のうち、第三回〜第九回外交記録公開で公開されたファイルを中心に作業を進め、同センターに五〇三冊分の画像を提供した。

### 三、展示

平成三〇年一月一日から五月三十一日まで明治一五〇年記念展示「国書・親書にみる明治の日本外交」を開催した。本展示については、一二月に外交史料館ホームページ上にデジタルアーカイブを公開した。

また六月二日から一〇月一日まで、明治一五〇年記念展示「条約書にみる明治の日本外交」を開催した。さらに、一〇月二三日からは企画展示「外交史料謎解きトラベル」を開催した（平成三二年二月二十八日迄）。

館外展示としては、七月二十四日から八月二十三日まで、北海道立文書館との共催で北海道一五〇年・明治一五〇年「世界史の中の北海道」を開催した。また、一月六日から二月一六日まで、鹿児島県歴史資料センター黎明館との共催で、明治一五〇年記念展示「外交史料にみる明治の日本外交」を開催した。明治一五〇年記念に関する各展示の詳細は本号掲載の「明治

一五〇年」特集記事を参照いただきたい。

#### 四、外交史料館所蔵史料検索システムの開設

平成三〇年二月一日に「外交史料館所蔵史料検索システム」を公開した。詳細は、本号掲載の活動報告「外交史料館所蔵史料検索システムの開設」を参照いただきたい。

#### 五、史料利用セミナーの開始

平成二九年度から、利用の促進のために、研究や学習のために外交史料を使ってみたいという関心を持っている大学生や大学院生向けの史料利用セミナーを開始した。平成三〇年二月には、外交史料館ホームページに案内を掲載し、以後一〇校、一回実施している。詳細は、本号掲載の活動報告「史料利用セミナーの開始」を参照いただきたい。

#### 六、日本国際政治学会平成三〇年度研究大会への参加

平成三〇年一月二日、大宮ソニックシティで開催された日本国際政治学会平成三〇年度研究大会の日本外交史分科会ラウンドテーブル「外交記録公開の進化と戦後日本外交史研究」に、当館から福郷外交史料館長が登壇した（その他の登壇者は川島真東京大学教授、白鳥潤一郎放送大学准教授、高橋和宏防衛大学校准教授（司会）、吉田昌弘外務省外交記録・情報公開室長）。

壇上では、吉田公開室長から現在の外交記録公開制度の進展が、さらに

福郷館長から所蔵史料検索システムの概要など、近年の外交史料館の利便性向上への取り組みが説明された。さらに二名の研究者より討論者としてのコメントをいただいた。

川島教授からは、公文書管理が行政の国民に対するアカウンタビリティを確保する事実を証明する点で、外交記録公開制度が重要な取り組みであること、公開の進展が、自国の記録により戦後日本外交史を歴史的に論じることができる点で意義深いこと、さらに国内外に対するパブリック・ディプロマシーの面で効果があることなどが指摘された。

続いて、白鳥准教授より、飛躍的に公開量が増えた外交記録について、利用者側も記録の作成された歴史的経緯や作成プロセスについて十分に理解した上で研究に活用することが求められること、外交史料館には外国人対応を意識した利用サービス充実を期待したいなどの意見が示された。

その他にパネルでは外交記録公開と学界との連携をより深める方法、外交史料館としてどのようなサービスの向上を目指すかなど、多岐にわたる点が活発に議論された。フロアは定員九〇名を超える満席状態となり、盛会のうちに終了した。